

調査項目	現 状	課 題	今後の取組予定
1 各学校における当面の課題及び今後の中長期ビジョンについて (特色ある教育活動の推進、新学習指導要領への対応、学習評価、授業改善など)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的に自立していくために必要な基礎的な学力の定着を目標としている ・多様な生徒の現状やニーズに応じた教育課程、指導を実施していく ・主体的に学び、問題解決に取り組んでいける資質を養うことを目標としている ・地域の良さを教育に生かすとともに持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する ・自己肯定感を深め、柔軟に社会に適応し、わが国の伝統や文化を尊重できる人材を育成する ・職業教育を充実させ、生徒の特性や発達段階に対応した適切な進路選択ができるよう指導する ・コミュニケーション能力を高め、より良い人間関係の構築に前向きな姿勢を涵養する ・観点別評価の定着を図るとともに、その評価をもとに、生徒が主体的に学習活動に臨んでいけるようフォローし、成長の積み上げを着実なものにしていく ・学校関係者評価、自己評価等を通して絶えず指導の改善を図り、教育目標の達成を目指していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、発達障害、学習障害等を抱えている生徒が多く、基礎的な学力の定着に困難を抱えている生徒も少なくない ・学習への意欲や、人間関係への積極的な姿勢に欠ける生徒も多く、将来への不安を抱えている場合もよく見受けられる ・通信制高校のため、不登校傾向の生徒でも比較的単位を取りやすいメリットはあるが、学力の涵養や、教育目標を達成するための指導、人間関係スキルを学ぶ機会の確保等をどこでどのように構築するか課題がある ・進学したり就職したりした生徒が、1年目の途中でやめてしまう事例が毎年のように出ている ・就学支援金が支給されても経済的な問題を抱えている家庭もあり、学校として機会均等をどう図るか課題がある ・多様化・複雑化する社会情勢や、あわせて難しくなっていく生徒対応等もあり、個別の支援が必要となる場合も少なくないが、教員の資質の向上や対応できる体制を整えるのに課題がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月校内研修を実施しているが、あわせて外部機関を利用した教員の研修参加を促し、専門的知見や技量の向上を図っていく ・たえざる教材研究や教科指導方法等の研鑽を積み重ね、より分かりやすく、基礎学力の定着を図れるものとすると共に、なおかつ積極的な学習意欲を掻き立てていけるよう努力していく ・行政を含めた外部機関や民間施設、学習等支援施設、医療・福祉関係者及び団体、企業等と連携を深めながら、生徒のはぐくみ環境をさらに充実させていく ・時代の変化を的確に見極め、生徒の特質や能力、興味関心を踏まえて、個に応じた適切な進路指導ができるように、研鑽と研究を積み重ねていく
2 生徒指導上の諸問題について (いじめ、不登校、校則の見直しなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校だった生徒も少なくないので、生徒の精神状態に気を配りながら、なるべく個に応じた学校生活に留意して運営している 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な配慮を心がけているものの、通学に困難を感じる生徒もいる ・生徒の特性などにより、相手の気持ちをくんで行動することや、発言することを丁寧に指導する必要に迫られる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育やホームルーム、個別指導等を通して、級友に対する思いやりや想像力、助け合う気持ちを涵養するよう心がけていく
3 人権教育の推進について (人権学習、人権教育推進計画、教職員研修など)	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育担当職員を中心に、研修や会議等を通して計画的に教員が人権意識を向上させていくことができるよう取り組んでいる ・志摩市内の担当者と定期的に連絡会議を開き、情報の共有等行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での情報共有や人権に適切に配慮した指導という点においてはまだ課題があり、徹底していくことが求められる 	<ul style="list-style-type: none"> ・県等外部機関で実施する人権に関する研修に、年一回以上、担当のみならず管理職も積極的に参加し、その成果を全職員で共有できるようにはかっている
4 高等学校入学者選抜の改善及び生徒募集定員の管理、クラスの編制について	<ul style="list-style-type: none"> ・800名の定員を現在超過している ・クラス編成は現在行っていない ・書類選考、状況に応じて面接を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員を超過している ・選考の際にしっかりと生徒を把握し、学校としてふさわしい選考となっているか慎重にみきわめる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員増に向けて申請中である ・入試委員会にて選考基準をさらに明確化し、適切に行われるよう配慮する

調査項目	現状と今後の取組予定等
5 キャリア教育 (県内定着や地域、課題解決や魅力に対する探究的な学びなど)	<p>(現状) 年に数回の進路ガイダンス実施。県内を中心とした企業、大学等をお招きし、進路相談会も実施。個別面談等随時実施。総合探究2では進路のことについて学び、総合探究3では地域の環境や文化、産業について学んでいる。本年より、キャリアカウンセラーが相談できる体制を整えた。</p> <p>(今後の取組み) 県で実施している説明会・相談会・連絡会等を通して、県内の企業についてさらに情報を広く集めるとともに、生徒の適性を見極め、適切に指導していく。また、県外からも就労を前提とした当校への就学の枠組みがあり、今後も継続して県内への定着を図る。あわせて、県外から面接指導等で来県してくる生徒に、三重県の魅力を体感できる活動を取り入れ、産業を紹介し、定着を図る。</p>
6 環境教育 (自然保全や学校としての省エネルギーの取組、環境調査等のフィールドワークなど)	<p>(現状) 公民科目や総合探究、特別活動、地域のボランティア活動等を通して、環境問題の学習に取り組んでいる。</p> <p>(今後の取組み) 現状の活動を継続し、外部機関と連携を取りながら、今後も取り組んでいく。</p>
7 国際理解教育 (探究の時間、姉妹港提携、留学や留学生・帰国子女等の受け入れによる国際理解の推進など)	<p>(現状) 地歴公民の授業、レポート等を通して、国際社会の多様性や問題について学んでいる。</p> <p>(今後の取組み) 現状での取り組みをさらに進め、工夫を加えながら、国際理解について進めていく。</p>
8 教職員の資質向上 (授業改善につながる研修会や授業見学、授業評価など)	<p>(現状) 毎月一回、職員会議後に職員研修を実施。県主催の研修会等にも随時参加させている。</p> <p>(今後の取組み) 授業見学・評価についてはまだ不十分なので、外部の評価を含め、導入を検討していく。また、年度末に在校生もしくは卒業生にアンケートを実施し、改善につなげていく。</p>
9 安定的な学校運営体制 (学校関係者評価等に基づく改善や働き方改革など)	<p>(現状) 令和3年度は学校関係者評価委員会を年度内に3回実施し、委員からの積極的な意見を聞くことができた。</p> <p>(今後の取組み) 新型コロナウイルス感染症の蔓延防止に伴う措置により、思うように地域との連携やイベントの開催などができずにいるので、今後の状況を見極めながら、実施できるものについては順次実施していき、地域との交流や理解を深め、学校として地域社会に貢献できることを行っていきたい。また、卒業生にアンケート調査を実施し、よりよい学校づくりへとつなげていく。</p>
10 防災教育・危機管理 (危機管理計画や防災計画の見直しや、講演会等の実施など)	<p>(現状) 危機管理計画・防災計画について、毎年度見直しを行い、防災訓練も実施している。</p> <p>(今後の取組み) 自衛隊や消防署など、外部機関と適切に連携しながら、研修できるものは順次実施していきたい。</p>
11 経営改善 (第三者による評価を受けた経営改善など)	<p>(現状) 第三者による評価は実施していない。</p> <p>(今後の取組み) 第三者評価委員会の導入を検討していく。</p>